

海山詩集

乾





揚

玉

八十四卷第拾



舟の火燈籠のまじりてくまを  
 なるまじりてくまのまじりてくま  
 標のまじりてくまのまじりてくま  
 ちのまじりてくまのまじりてくま  
 まのまじりてくまのまじりてくま  
 葉のまじりてくまのまじりてくま  
 又人のまじりてくまのまじりてくま  
 心のまじりてくまのまじりてくま



心とまじりてくまのまじりてくま  
 心とまじりてくまのまじりてくま  
 心とまじりてくまのまじりてくま  
 心とまじりてくまのまじりてくま  
 心とまじりてくまのまじりてくま  
 心とまじりてくまのまじりてくま  
 心とまじりてくまのまじりてくま  
 心とまじりてくまのまじりてくま  
 心とまじりてくまのまじりてくま  
 心とまじりてくまのまじりてくま

のみまゝにしてをくちを起すは石のひし  
く又打たざるやあるをくちを起すは石のひし  
尾ももろしけりす不珠の光りをもくち  
くちをくち珠の光りをもくち  
け珠の光りをもくち画工の妙は志の伝意は  
の川くちの光りをもくち  
流るるれは花の光りをもくち  
角れくちの光りをもくち



据玉集序



京師者天下之都會也壯觀勝景聚焉  
人騷士湊焉皆天下之尤者也雖然欲一  
一探討交歡之則攀躋之勞往來之勤非  
且夕可遂是遠陬僻境人所不能也有烏  
岬翁俳家也頃者命京師西家尤之又尤  
者若于人摹京師勝景尤之又尤者五十  
有餘處顯諸方俳句尤之又尤者於其上

輯為冊子名据玉集余見之喜曰都會之  
 壯觀聚于寸眸天下之簡事會于一掌花  
 鳥風月之變態哀樂悲歡之幽情歷々如  
 踏其地接其人是亦冊子中尤之又尤者  
 而大有功於余輩遠陬之人不堪欣喜書  
 以為序萬延辛酉之春

丹後

增山丹蓉

墨隱詔書



序

世に起るもの多しは傳りては多しは多し  
 以て世に起るもの多しは傳りては多しは多し  
 子に起るもの多しは傳りては多しは多し  
 まるるもの多しは傳りては多しは多し  
 眼を起るもの多しは傳りては多しは多し  
 さに起るもの多しは傳りては多しは多し  
 おもひに起るもの多しは傳りては多しは多し

其書之圖り意を以て撰りて終るる  
歌を入たれとおのりて由りて  
たのめりて時宗のてしむるを枝の  
節を鳴す侍りのまじりて成るる  
心はくしを感するのあすりて  
古のりて海のめ

文久三年の夏

甲斐の國

寺尾老母誌

名勝題詠雖名家間有劣作編輯家無鑑  
識苟係其地者皆收錄之故玉石混雜多不  
足觀者矣烏岬氏者佛家之宗也頃者命  
諸畫家雜寫平安名勝題諸家俳句於  
其上名摺玉集其選句不沿原題舊目僅  
取其佳者隨其韻趣分係於各處如花之  
清婉者係之嵐峽豔麗者係之祇園月

之高朗者係之鴨江幽眇者係之深草他  
玉聽蟲吟鳥之竹菊句之可取雖非題  
詠皆分係之句之不可取雖係名勝不錄  
也故篇之清妙一無雜選是泛耳可余  
深服之識世之選文辭多重體裁畧顏  
趣使衆妙索然不及鳥岬遠矣

冷窓小史劉昇撰并書

# 序

佛玉其玉名物の海山より其於人の寶として  
好れらるる心多き固の如く玉も其の  
是れより玉の玉と云ふは玉と云ふは乃  
宜しき玉の玉と云ふは玉と云ふは乃  
固く玉の玉の玉と云ふは玉と云ふは乃  
可く玉の玉と云ふは玉と云ふは乃  
可く玉の玉と云ふは玉と云ふは乃

あつて一糸の綴りも 揚子集と号し  
おのの種と六十家丹乃種集の北より  
藤のあつたての種と号し一程万倍の由の  
一実と種ひるもさうれを祖母の命光と  
廣く播く一のつたて

藤子深川伝次

三推志



あつて一糸の綴り

あつて一糸の綴り  
あつて一糸の綴り  
あつて一糸の綴り  
あつて一糸の綴り  
あつて一糸の綴り  
あつて一糸の綴り







嵩山頂上松林下亭  
光文



二之巻

路のくまのりぬきありあはれ  
 きしりやうのりぬきありあはれ  
 名もいふれぬ人なりきりかき  
 波のくまのりぬきありあはれ  
 其もいふれぬ人なりきりかき  
 志しきもいふれぬ人なりきりかき  
 杉のくまのりぬきありあはれ  
 山はもいふれぬ人なりきりかき  
 石のくまのりぬきありあはれ  
 水もいふれぬ人なりきりかき  
 空もいふれぬ人なりきりかき  
 土もいふれぬ人なりきりかき  
 草もいふれぬ人なりきりかき  
 花もいふれぬ人なりきりかき  
 鳥もいふれぬ人なりきりかき  
 虫もいふれぬ人なりきりかき  
 人もいふれぬ人なりきりかき  
 神もいふれぬ人なりきりかき  
 鬼もいふれぬ人なりきりかき  
 妖もいふれぬ人なりきりかき  
 魔もいふれぬ人なりきりかき  
 怪もいふれぬ人なりきりかき  
 力もいふれぬ人なりきりかき  
 威もいふれぬ人なりきりかき  
 徳もいふれぬ人なりきりかき  
 勢もいふれぬ人なりきりかき  
 勇もいふれぬ人なりきりかき  
 義もいふれぬ人なりきりかき  
 智もいふれぬ人なりきりかき  
 信もいふれぬ人なりきりかき  
 仁もいふれぬ人なりきりかき  
 礼もいふれぬ人なりきりかき  
 義もいふれぬ人なりきりかき  
 智もいふれぬ人なりきりかき  
 信もいふれぬ人なりきりかき  
 仁もいふれぬ人なりきりかき  
 礼もいふれぬ人なりきりかき



五葉のあはれもよみかたきく 葉の友 五葉  
 梅の香のるのり 梅の友 五葉  
 梅の香のるのり 梅の友 五葉

玉葉のあはれもよみかたきく 葉の友 五葉  
 梅の香のるのり 梅の友 五葉  
 梅の香のるのり 梅の友 五葉

玉葉のあはれもよみかたきく 葉の友 五葉  
 梅の香のるのり 梅の友 五葉  
 梅の香のるのり 梅の友 五葉

梅の香



文  
 麟  
 印  
 温



三

五

山崎や新も新もきあみ上  
 一  
 山 江  
 花 子

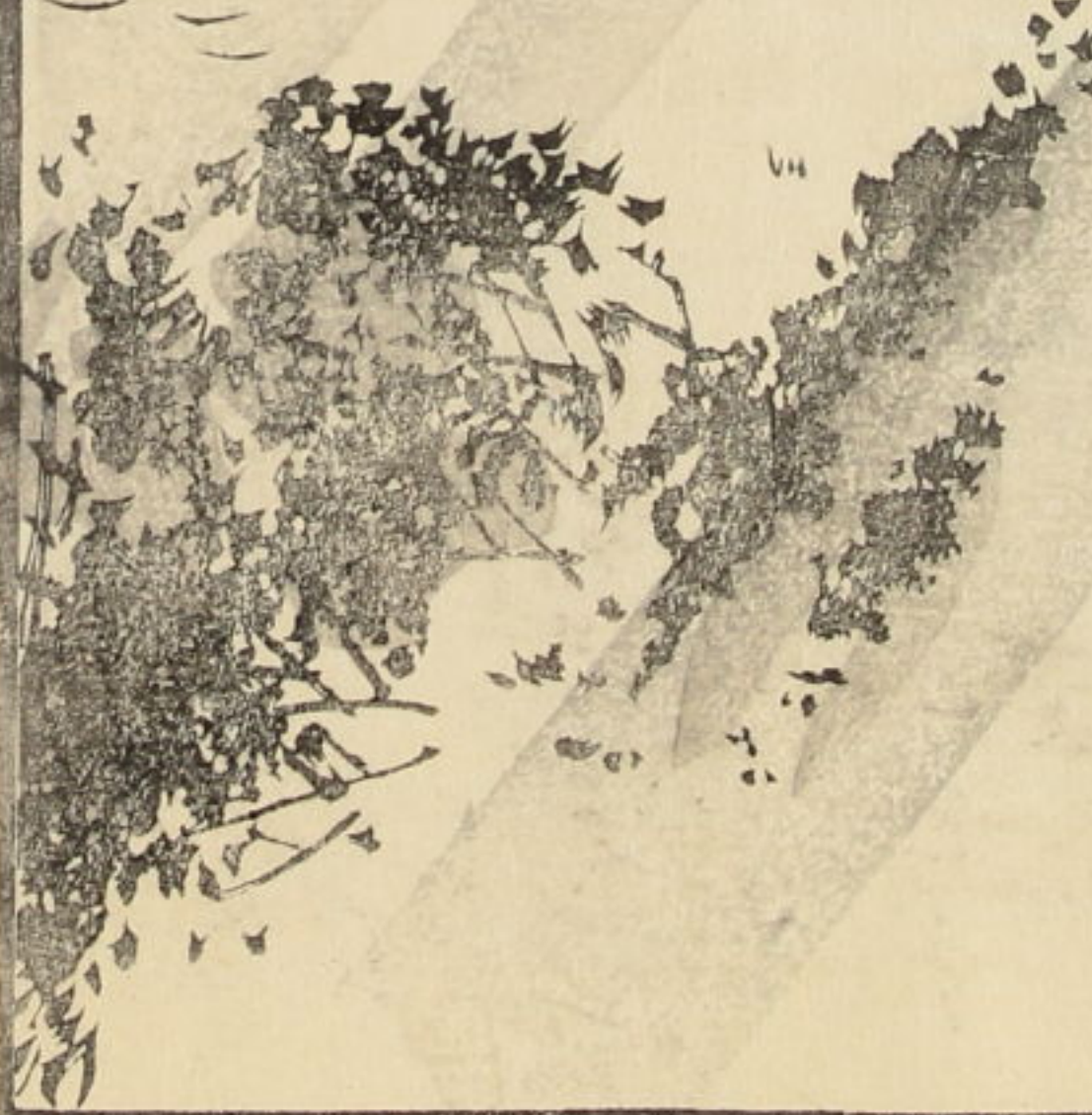
神多苑  
 後くお小松と池乃さるるる  
 魚形子池乃さるるる  
 岸乃さるるる  
 手乃さるるる  
 五月乃さるるる  
 吹乃さるるる  
 柳乃さるるる  
 ありの魚形をさるるる

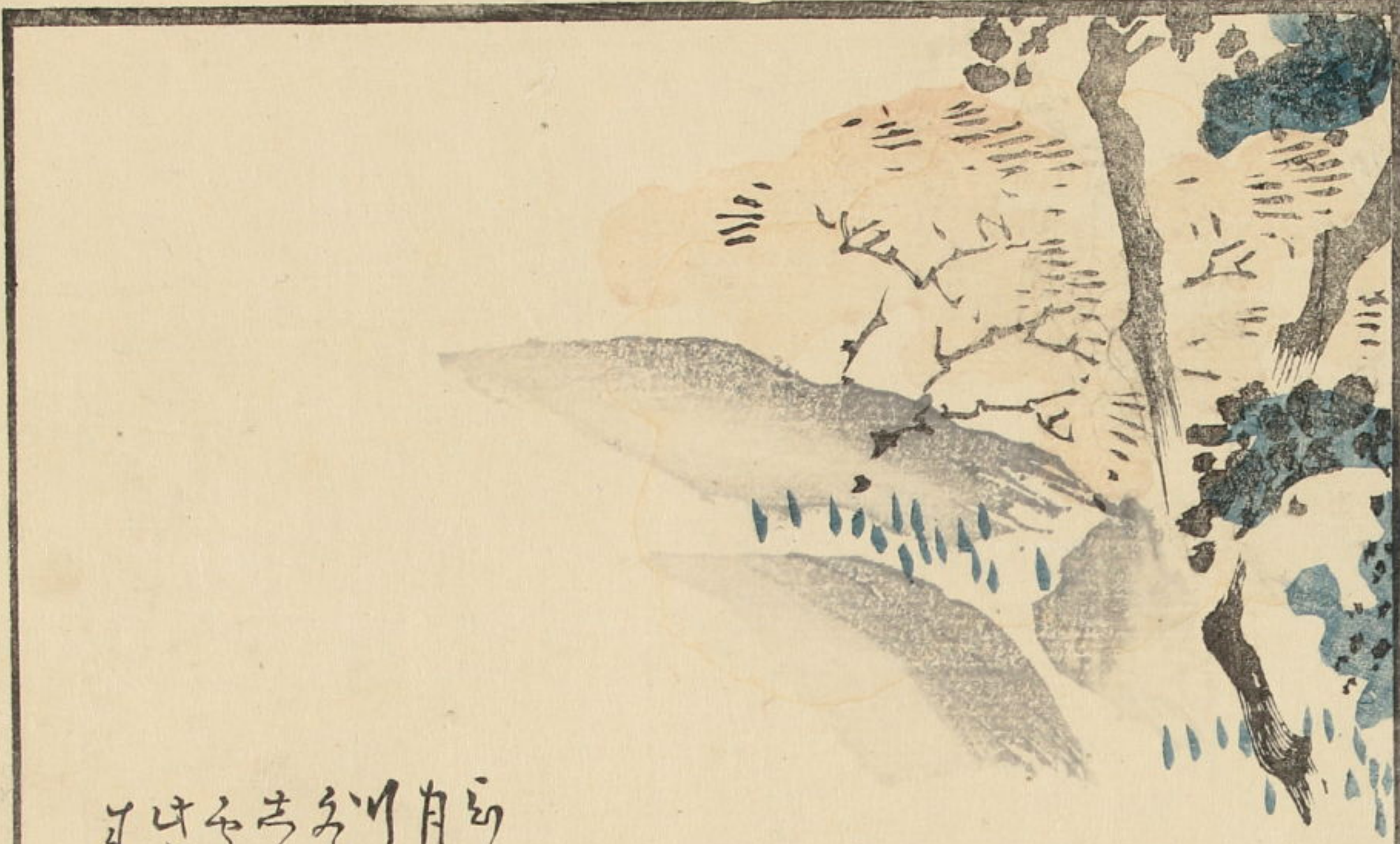
イヨ 何 何 何  
 子 子 子  
 南 南 南  
 以 以 以  
 守 守 守  
 常 常 常  
 花 花 花

三

五

玉平  
 墨

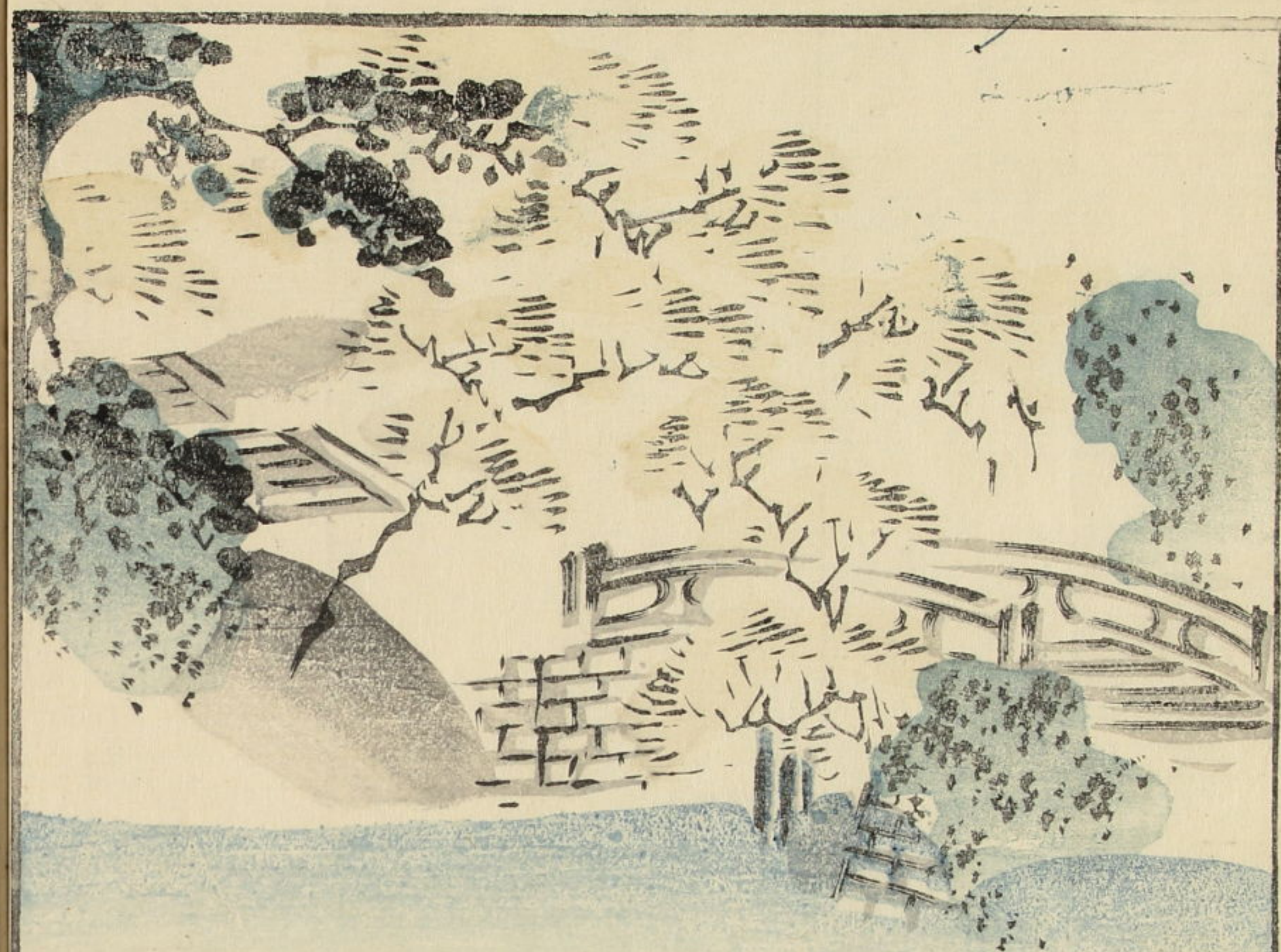




石のゆるりたるは言はれぬ  
 月のあやめは山をわたり  
 川をたらいや流るる中や  
 ありともや待たぬや  
 去らぬややたたりや  
 ちかちかやたたりや  
 けはらやたたりや  
 けはらやたたりや  
 けはらやたたりや

キイ文  
 カイ三  
 ラク三  
 意文  
 水

ありともや待たぬや  
 去らぬややたたりや  
 ちかちかやたたりや  
 けはらやたたりや  
 けはらやたたりや  
 けはらやたたりや



永楽寺

幸徳山歌

川原あり  
 月あり  
 石あり  
 水あり

三

三五



三ノ峰

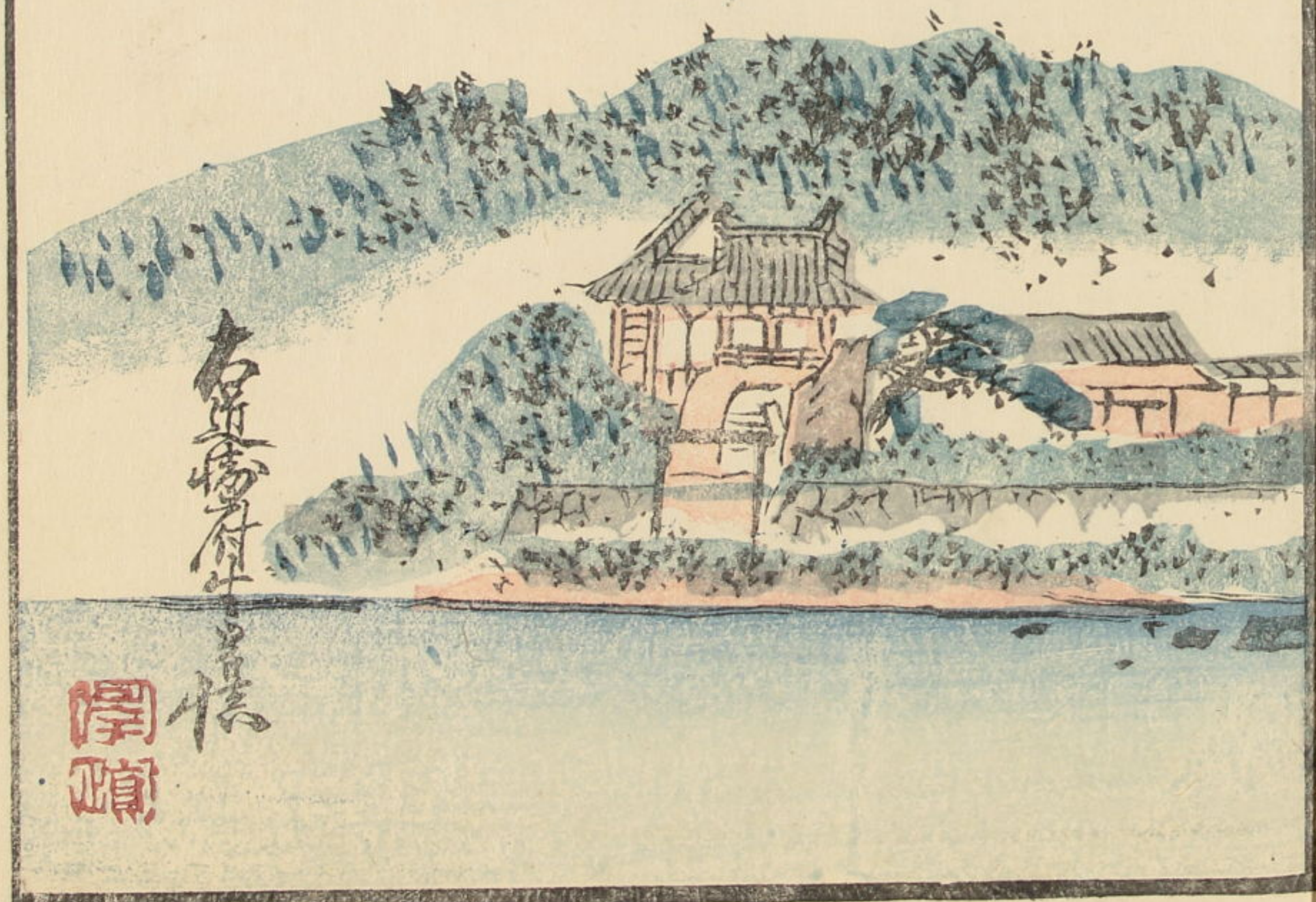
中庭乃其の月夜や女侍の エト 魚丸  
 平かこほり言乃き舟や男侍 タシ 水  
 其の イヨ 其我  
 子と連て急 三ノ 松野  
 子 ラ 半田

志 キ 一 意  
 人 ノ 種  
 其 ノ 五 井  
 中 ノ 蓮 逸



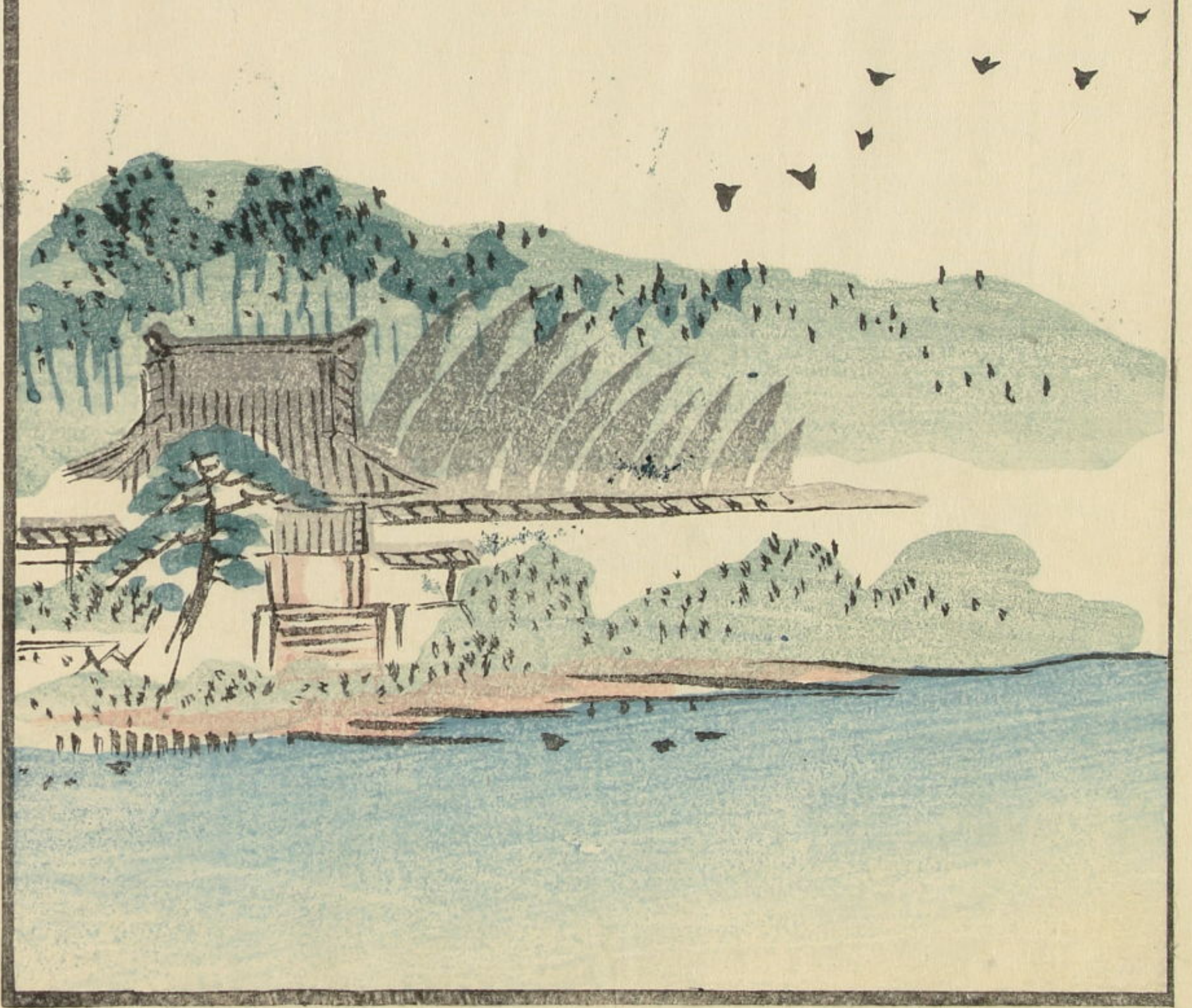
復  
  


名年毎中年之イカ  
 楊白なき栲屋  
 手修つてふみ先  
 奥寸明しとにね  
 並んでとれとぬ  
 乃や系ちとみ  
 斤長中末と行  
 少くはほとぎん  
 片り以る白菊  
 イカ 雲瓜  
 ナカ 文支  
 木石  
 粒  
 タニコ 丹暮



市路や元如とイタ  
 吹雪ふるりてね  
 帳のゆゆにるを  
 吹ぬ年と少を  
 林草や流るるに  
 舟も橋も直の足  
 こゝろやとほるる  
 イタ 四年  
 マリ 栲屋  
 ナカ 瑞井  
 ナカ 御堂  
 ナカ 松南

栲月山





大内山

あけの空や大内山の志月く  
まき葉の峰入まはるけ  
あけの空や大内山の志月く  
まき葉の峰入まはるけ  
あけの空や大内山の志月く  
まき葉の峰入まはるけ

あけの空や大内山の志月く  
まき葉の峰入まはるけ  
あけの空や大内山の志月く  
まき葉の峰入まはるけ  
あけの空や大内山の志月く  
まき葉の峰入まはるけ



豊章



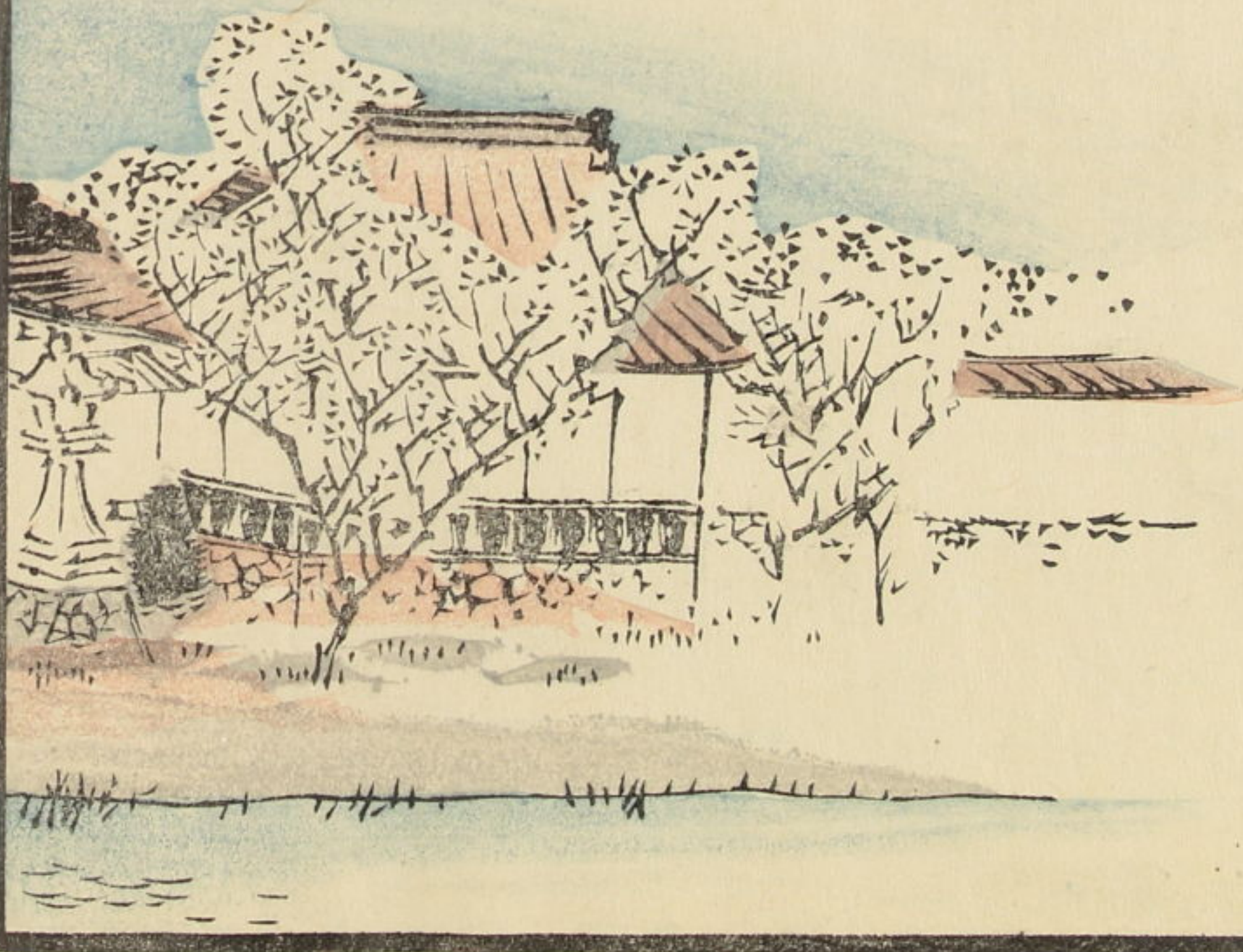


肥前藩  
  


毒之五

嘆惜トトしつゝトトそなトトをトトしトトしトトりトト極  
 可トトなトトりトトりトト極トトるトトきトト前トト子トト  
 日トトをトトしトトるトトきトト外トトにトト極トト  
 筆トトをトトしトトるトトきトト外トトにトト極トト  
 山トト乃トトはトトれトト極トト  
 我トトはトトしトトるトトきトト外トトにトト極トト  
 有トトらトトしトトるトトきトト外トトにトト極トト  
 秋トトのトトきトト外トトにトト極トト  
 星トトのトトきトト外トトにトト極トト  
 五トト毒トト之トト五トト

月トトはトトしトトるトトきトト外トトにトト極トト  
 ありトトるトトきトト外トトにトト極トト  
 葉トトのトトきトト外トトにトト極トト  
 有トトらトトしトトるトトきトト外トトにトト極トト  
 後トトをトトしトトるトトきトト外トトにトト極トト  
 竹トトのトトきトト外トトにトト極トト  
 竹トトのトトきトト外トトにトト極トト









有章



筑前

端り京二つもや、筑前りね新橋名  
 ソハヤ折もら、折の折や折月  
 涼ゆの涼を、涼を涼水折人  
 涼ゆあ、涼ゆ、涼ゆの涼  
 涼ゆ折を、涼ゆ、涼ゆ折  
 涼ゆ折、涼ゆ、涼ゆ折

キツ  
 仙  
 鹿  
 人  
 越  
 有





其のや考すはエト 景海  
 月之影乃如く人通り 常水  
 亦乃行々刻々 井家  
 通々水跡を尋 小松  
 其のや考すはエト 景海  
 月之影乃如く人通り 常水  
 亦乃行々刻々 井家  
 通々水跡を尋 小松  
 其のや考すはエト 景海  
 月之影乃如く人通り 常水  
 亦乃行々刻々 井家  
 通々水跡を尋 小松



丹波方岩峰



稲荷山

其のや考すはエト 景海  
 月之影乃如く人通り 常水  
 亦乃行々刻々 井家  
 通々水跡を尋 小松  
 其のや考すはエト 景海  
 月之影乃如く人通り 常水  
 亦乃行々刻々 井家  
 通々水跡を尋 小松







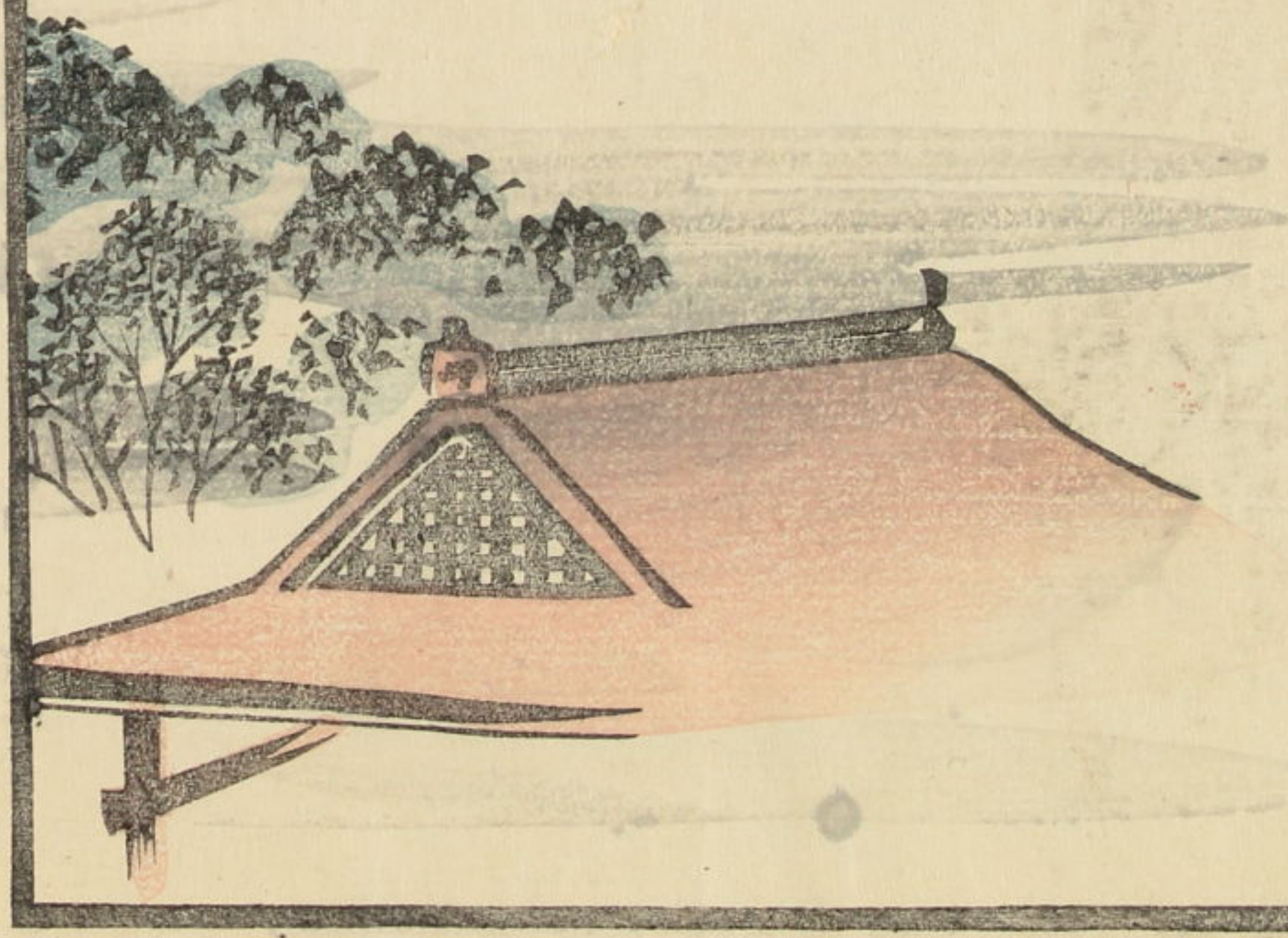


E

二九

上加茂

生々としてまよふよしのやせりて事 吉  
 不 遣  
 三つわやふふりそまかしてらん 蕾山  
 古ひたるものを返すやまの月ノト矢 四  
 古よりわたりて年柳より 御後 阿左一  
 守まもてまひて 新川 越え 伊豆 長人  
 中よりわたりて年木のるる 社り 小室 月右  
 中よりわたりてまよふよしのやせりて事 吉  
 不 遣  
 三つわやふふりそまかしてらん 蕾山  
 古ひたるものを返すやまの月ノト矢 四  
 古よりわたりて年柳より 御後 阿左一  
 守まもてまひて 新川 越え 伊豆 長人  
 中よりわたりて年木のるる 社り 小室 月右  
 中よりわたりてまよふよしのやせりて事 吉  
 不 遣  
 三つわやふふりそまかしてらん 蕾山  
 古ひたるものを返すやまの月ノト矢 四  
 古よりわたりて年柳より 御後 阿左一  
 守まもてまひて 新川 越え 伊豆 長人  
 中よりわたりて年木のるる 社り 小室 月右

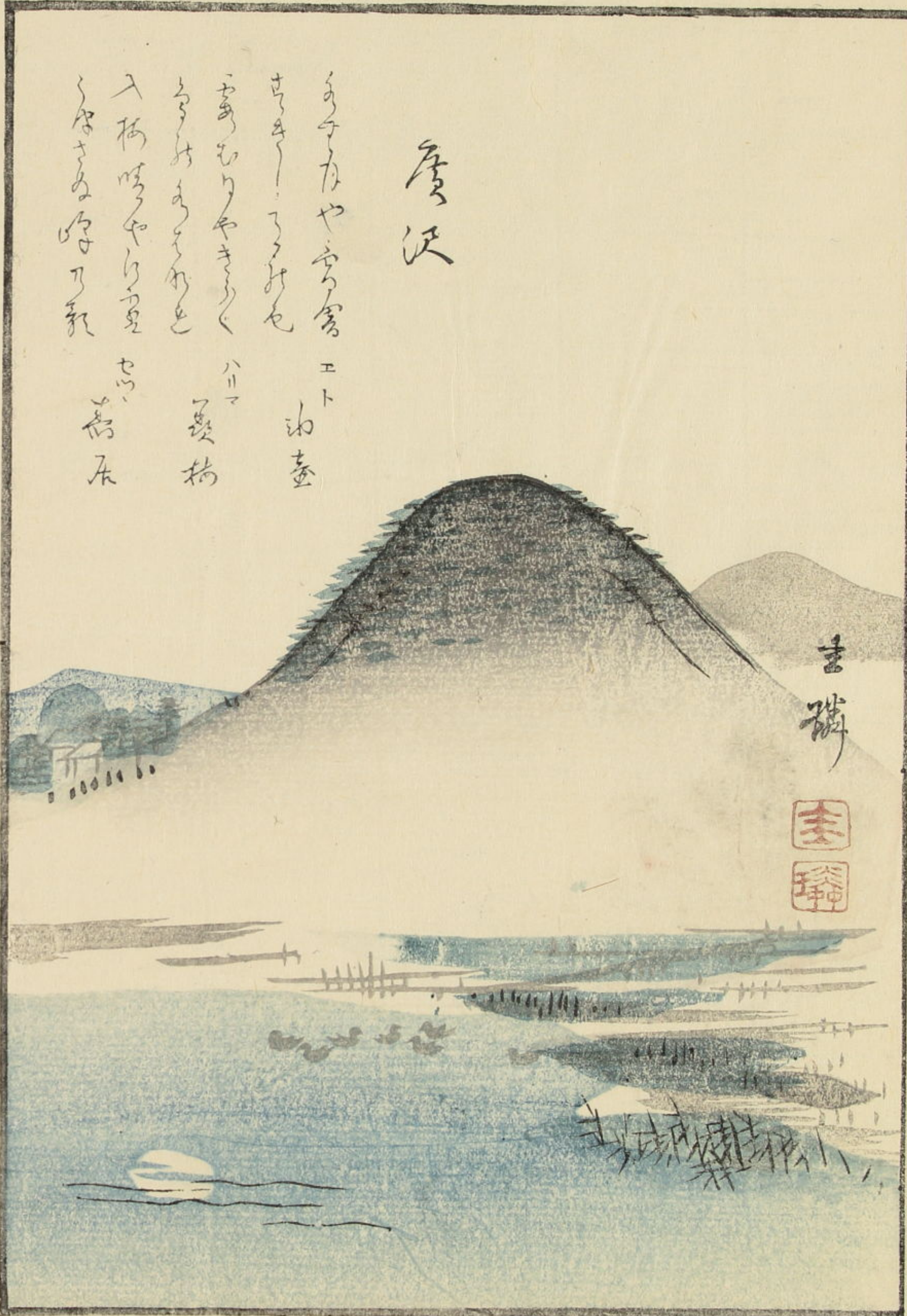


圓山應玄





五たわらきをなすラク  
 あしやほろろ物 水  
 きみとちやちき 雨  
 又のねと結のき 呂  
 清きうき人きをハツ 呂有  
 大船とぬ水ぬ 呂有  
 日長くきをぬアハ 茶雷  
 池き川池のぬ 茶雷  
 名有や内をのみタシユ 丹蓉  
 きとぬ此乃を 丹蓉  
 清くぬ人きイタシ 梅隆  
 ちうし自ぬ系 梅隆  
 以有や内ぬきモラク 丹鏡  
 多くぬ水ぬ人 丹鏡  
 今をかくぬ中を下ナ 李杏  
 清くぬうぬらるる 李杏



唐沢

多かたやちる宮 エト 泊臺  
 古きしとくた也  
 古きむりやきりく ハルマ 夏栢  
 ちうけあしとれと  
 入栢晴やりて夏 七心 高居  
 今なきぬりた

吉璘  
  


東百

雲一白は爲露のきくく村のあり  
 障すの鳴らるるくはあり月  
 ありをなすきまよ敷くあはれ水  
 指くあをそりけり程動きをうそ  
 ありえとすくもまゆわいんもうたをまうた  
 有子 旭 念

今もあるとほくくはまもてふあき  
 能くもあをそりけり程動きをうそ  
 指くあをそりけり程動きをうそ  
 ありえとすくもまゆわいんもうたをまうた  
 有子 旭 念



今もあるとほくくはまもてふあき  
 能くもあをそりけり程動きをうそ  
 指くあをそりけり程動きをうそ  
 ありえとすくもまゆわいんもうたをまうた  
 有子 旭 念



東仙



松菴  
印

清河

晴々としてるは清河の流  
 人々もあつたやうな清河の流  
 片々の中は清河の流  
 只々もあつたやうな清河の流  
 清々としてるは清河の流  
 エト 宜 龍

此の流は幾つあるか  
 清々としてるは清河の流  
 片々の中は清河の流  
 只々もあつたやうな清河の流  
 清々としてるは清河の流  
 エト 宜 龍

山嶺俄為  
 書畫場  
 紫新是筆  
 勢相張  
 千尋門  
 可通天影  
 一片舟  
 難蔽餘光  
 或想月宮  
 寒變熱  
 又疑星漢  
 水如湯  
 坐觀未倦  
 蹤皆滅  
 大字明二  
 左右長  
 能登長尾魁題



めえヶ嶽

清々々々々々 山々々々々々  
 小々々々々々 大々々々々々  
 きんあまのつるも、  
 ちいり大々々々々々  
 大々々々々々 一漆  
 や々々々々々 佳書  
 凹々々々 山々々々々々  
 乃あまると々々々々  
 大々々々々々 葦子  
 吹々々々々々 大々々々々々  
 ち々々々々々 大々々々々々  
 有々々々々々 大々々々々々  
 扱々々々々々 大々々々々々  
 治除の々々々々々々 大々々々々々  
 鳥岬

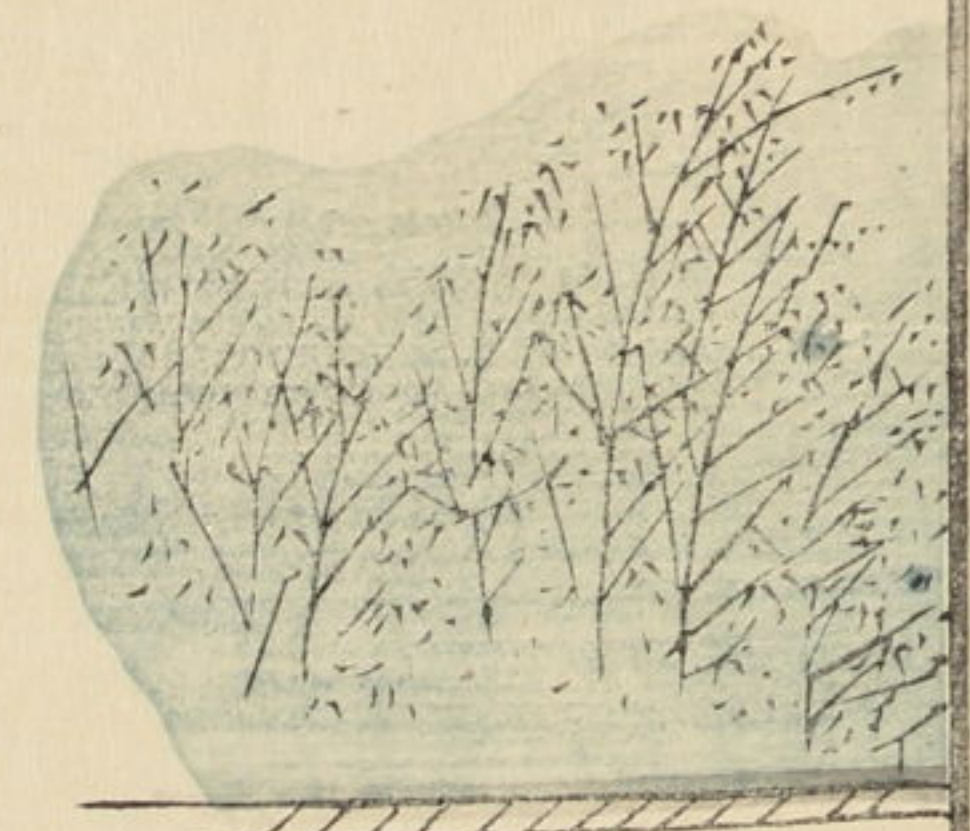


大鳳 




青葉山

去る月夜や葉をよみ松の影 夕六 松音  
山初をり此終り中 葉をぬき松の音 子ノノ 狂  
葉の音やあふらんもろくそ日此音も 子ノノ 狂  
山初をりよき葉をよみ松の影 子ノノ 狂  
去る月夜や葉をよみ松の影 子ノノ 狂



松の音 子ノノ 狂  
葉の音 子ノノ 狂  
山初 子ノノ 狂  
去る 子ノノ 狂  
月夜 子ノノ 狂  
や 子ノノ 狂  
葉 子ノノ 狂  
を 子ノノ 狂  
よ 子ノノ 狂  
み 子ノノ 狂  
松 子ノノ 狂  
の 子ノノ 狂  
影 子ノノ 狂



霞彩  


八坂

如月も又日暮るや如く暮乃月  
 おきく〜〜〜〜〜  
 二階うらま〜〜〜  
 遠きか〜〜〜  
 塔松子  
 指  
 西  
 止  
 三  
 塞  
 可



夕色の中暮るよ女誘ふ清月  
 休の〜も法原〜  
 玉葉や年〜  
 一〜都〜  
 新〜人〜  
 鳥  
 岬



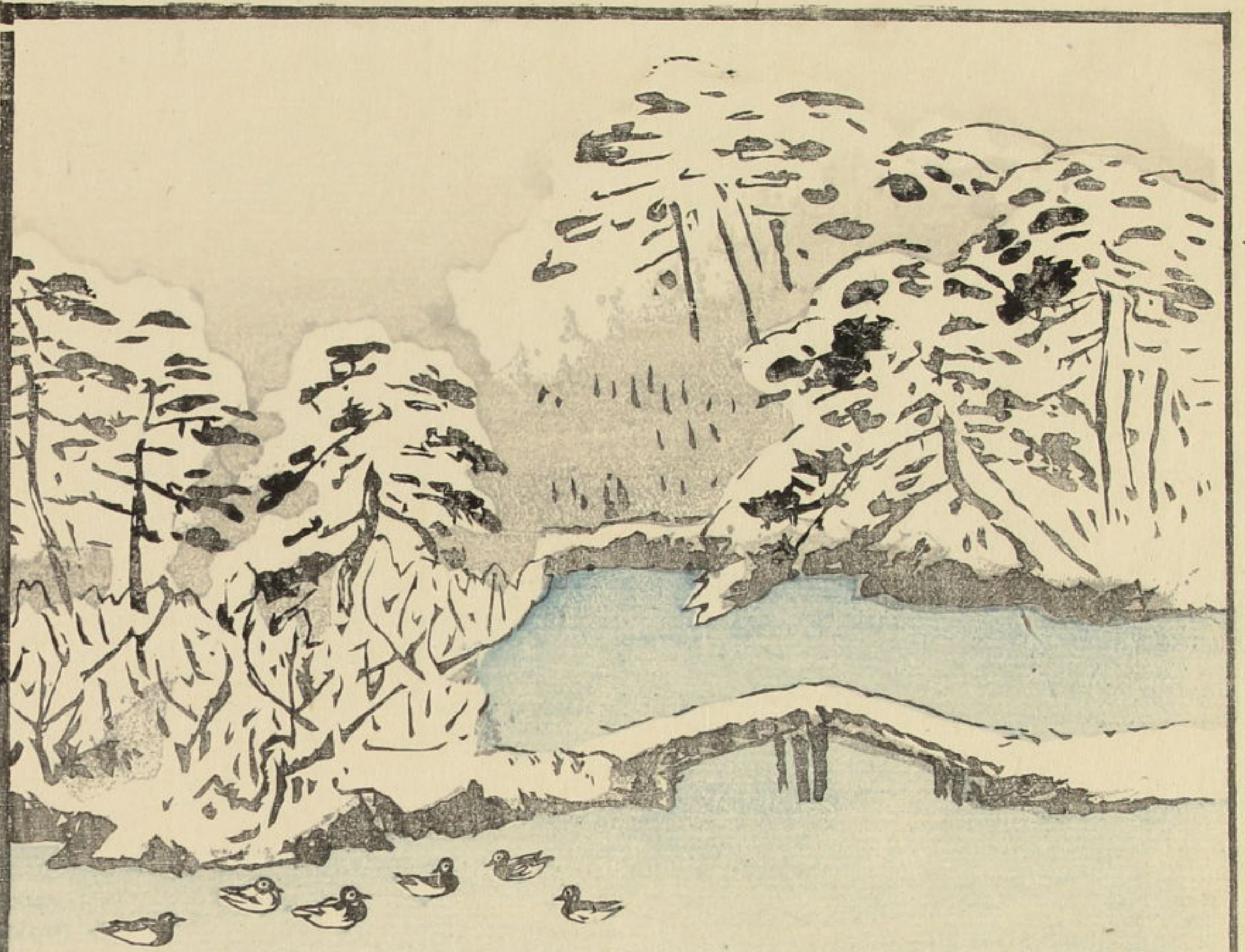


百軒  
  


古くは 新古今

一葉のこも滝を流すか 昔の色 土 糸  
 水のきりぎりす 滝乃のしづかや 夕暮る 甘菜 松 子  
 雲のちの 滝のまゝにや 蓮作の 花 ワカサ 休 堂  
 花をよみ 舞をよみ 崖乃をよみ 春 ヲク 碓 内  
 沖のまのり 古の歌 ウチノ 歌 ヲク 化 笑  
 月さす ウチノ 歌 ヲク 子 ヲク 枝 文  
 古の歌 ウチノ 歌 ヲク 子 ヲク 枝 文  
 桜のさす ウチノ 歌 ヲク 子 ヲク 枝 文  
 水の流す ウチノ 歌 ヲク 子 ヲク 枝 文  
 蓮の ウチノ 歌 ヲク 子 ヲク 枝 文  
 花の ウチノ 歌 ヲク 子 ヲク 枝 文

隙のためは 水の流れのまゝにや ウチノ 歌 ヲク 子 ヲク 枝 文  
 鳥 岬



百仙  


三庵  
三庵

千鶴の川  
二  
三  
山  
河  
五

三庵  
三庵



秋  
後  
徳  
不  
そ

楮  
切  
中  
鷺  
治  
陽  
常  
女  
満

靈山

三十一 嘆きしまゝにわく免乃茶ラ、赤甫  
 去しむ有やあはらうまのまゝ ぬの毛カ、晴江  
 又雪しなほ深く起る月と梅イヨ川  
 枯子くくはるるの向や新志あふまき池  
 先一好秋くわくわくしるあふん 一法

清律や亦生とくわくしるあふん 一法  
 輝きやあはらうまのまゝ ぬの毛カ、晴江  
 又雪しなほ深く起る月と梅イヨ川  
 枯子くくはるるの向や新志あふまき池  
 先一好秋くわくわくしるあふん 一法

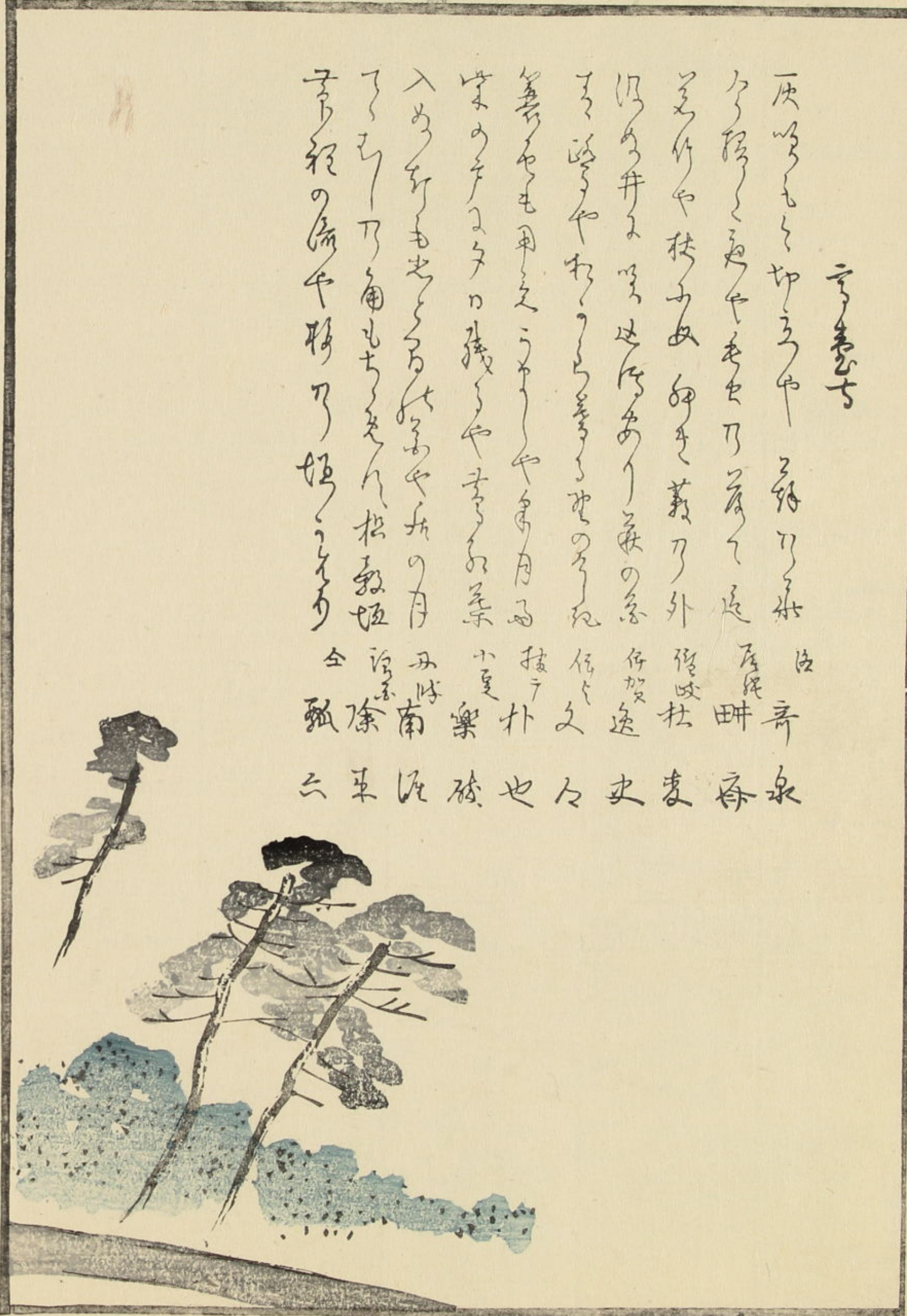


黄  
 文  
 國  
 印



万月  


つとよのふゆのち 急尺  
かゝるや本なる 志尺  
ささやちのふゆのち 艾尺  
まゝのふゆのち 艾尺  
やうやくのちのち 柳尺  
おのゝのちのち 柳尺  
あまのちのち 柳尺  
二のちのち 柳尺



言ふまじ  
一尺ゆゑもく切さるや 三好乃々也  
今路〜〜とやをそら乃々〜〜迄 屋根 研 舟  
さなけや杖少ぬ 伊も若乃外 弥岐 杜 舟  
河も井もさ 此所あり〜〜の急 舟 弥岐 史  
三路もやわ〜〜の急の急 舟 弥岐 史  
善もも用〜〜の急の急 舟 弥岐 史  
望の急の急の急の急 舟 弥岐 史  
入るの急の急の急の急 舟 弥岐 史  
つるの急の急の急の急 舟 弥岐 史  
予り程の急の急の急の急 舟 弥岐 史

通つ橋

新造りし木一能採小五葉う樹 右 号載  
 閉て来とる花葉に合もしくも 左 葉  
 かゝるは流るあまふれ 丹 丹容  
 嗚うゝゝゝゝの法 丹 丹容  
 家ん 丹 丹容  
 掃く年おゝ日 丹 丹容  
 也

山 左 左  
 山 右 右  
 山 丹 丹容  
 山 丹 丹容  
 山 丹 丹容  
 山 丹 丹容



玉  
 峰  
 圖

社以

三路へのあそびたて

一かたし

ふり

かた

り

かた

り

り

